

学校だより No.8  
青森市立佃小学校  
令和3年10月29日発行

全校児童数	466名
男子	223名
女子	243名

◆教育目標◆

あかるく・かしこく・きよらかに

## 「学習」発表会

校長 山田 彰利

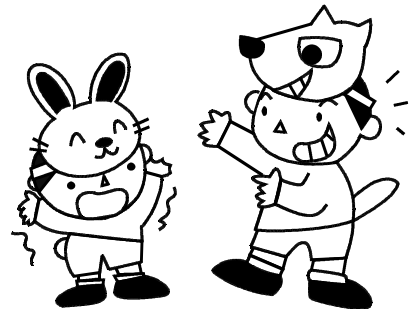
3日間にわたって行った学習発表会。例年とは違う形となりましたが、たくさんの温かい拍手をいただきました。ご参観、大変ありがとうございました。各学年とも、練習の成果を存分に発揮し、精一杯の姿をお見せできたものと思っております。

練習を始めたばかりの頃、自信がなさそうにもじもじしていた子、自分の番が分からずに困っていた子たちが、堂々と立派に演じることができるようになりました。この間わずか1～2週間。子供たちの成長には驚かされるばかりです。練習中、決して楽しいときだけではなく、自分の希望の役になれなかった子、舞台上で注目されるのが苦手な子…。でも、なんとか乗り越えて、学年として一体感のある発表を創り上げてきました。

ご家庭でも大いに話題にして、お子さんの頑張りを認めてあげてください。もちろん、当日だけでなく、それまでのプロセスも含めた頑張りを、です。

さて、当日のあいさつでも触れましたが、学習発表会、学校としては、次のようなねらいをもって行いました。

- ① 子供たちの表現力を育てる。
- ② 協力して創り出す喜びを味わわせる。
- ③ 自己有用感・自己肯定感を高める。



これらは本番だけでは身に付きません。多くを担っているのは練習期間です。

子供たちだけのグループ練習。そこでは、友達の動きや話し方を見合い聞き合いながら表現力を磨きます。その中から、主体性や協力する態度・互いに折り合いを付ける力などが育ちます。

学年全体での練習では、自分の台詞や演技などのほかに、自分が演じていないときや舞台袖にいるときの態度、友達の演技を見る態度などを学びました。その中で、他者を尊重したり敬意をもったりする心、集団の中での規範意識、全体の中で自分の役割があるという役割意識などが育ちます。そして何より、皆で一つのものを作り上げたという達成感・仲間意識が高まったのではないのでしょうか。

しかも、これらは机上で理屈として学ぶのではなく、実際の場面を通して体験的に全身で学んでいくわけです。友達とぶつかったり、何度も同じ練習を繰り返したり、喜びを一緒に分かち合ったりしながら、自己有用感を高め、成長していくのです。「『学習』発表会」とは、きっと、こういった意味の「発表会」でもある、そのように考えています。